

平成 30 年度 第 2 回図書館協議会 会議録 (要旨)

日 時： 平成 31 年 2 月 8 日 (金) 午前 9 時 30 分～11 時分

会 場： 燕市役所 3 階 会議室 301

出席委員： 伊藤委員、井部委員、池田委員、石山委員、加藤委員、近藤委員、
高頭委員、柳原委員

欠席委員： 澤田委員、田中委員

事務局： 燕市教育委員会 仲野教育長、山田教育次長、更科社会教育課長
本田社会教育課長補佐、古澤副参事 (生涯学習推進係長)、浅野主任
指定管理者 岸本館長、菊埼統括マネージャー
宗村業務責任者 (燕市立図書館)、佐藤業務責任者 (燕市立吉田図書館)
野島業務責任者 (燕市立分水図書館)

報道機関： なし

傍聴者： なし

議 題：

報告

- (1) 平成 30 年度図書館利用状況 (H30.12 月末現在) について
- (2) 平成 30 年度図書館事業報告 (H30.12 月末現在) について
- (3) 燕市立図書館空調等改修工事及び仮設図書館の開設について
- (4) 燕市立図書館仮設図書館の利用状況について

協議

- (1) 平成 31 年度図書館事業計画 (案) について
- (2) 第 2 次子ども読書活動推進計画の策定について
 - ①燕市図書館協議会運営規則の一部改正について
 - ②第 2 次子ども読書活動推進計画の策定について
 - ③平成 30 年度上半期の進捗状況について

その他

- (1) 平成 30 年度の蔵書点検について
- (2) 新潟連携中枢都市圏構想に基づく生涯学習人材バンクの連携について

[以下、会議録(要旨)]

報告

(1) 平成 30 年度図書館利用状況 (H30.12 月末現在) について

《事務局説明》

○委員

図書館の利用者数が、燕図書館の工事の影響により減少しているとのことだったが、レファレンスの数も半数程度まで減少している。その原因はなにか。

○事務局 (図書館)

レファレンスは全体的に減少している。燕図書館は、やはり休館期間によるものが大きい。分水と吉田も減少しているが、レファレンスは個々の担当が、レファレンスとしてカウントするか否かという判断を個人でせざるを得ないところがあるため、どうしても数字の変化は起きてきてしまう。

○委員

読売新聞で今日から「図書館の力」という連載が始まった。そこで取り上げられていた内容であるが、大田区で医療関係の図書を分類に関わらずまとめたところレファレンス件数が増え、医療系図書の貸出し数も増加したということがあるので、燕市の図書館もこのような取組を参考にして、サービスの向上に努めていただきたい。

○委員

今の若い世代は、インターネットで何でも調べることができるが、年配の方々は、それでも図書館を訪れる方々が多いように思う。

年配の方々に配慮して、高齢者に関心の高い「健康特集」や高齢者に分かり易い案内表示等を検討していただきたい。

また、先程レファレンスのカウントは、「スタッフ個人の判断にゆだねる部分がある」という話があったが、統計データとして重要なので、レファレンスとしてカウントするか否かの基準を設けるべきだと思う。

(2) 平成 30 年度図書館事業報告 (H30.12 月末現在) について

《事務局説明》

○委員

大人が楽しむお話会に私も参加している。中でも「スーホの白い馬」がとても良かった。

私が幼い時に読み聞かせしてもらったことを思い出した。そこで、やっていただくいくつかのお話の中に誰もが知っている「手袋を買いに」というようなポピュラーなものを一つ入れていただけると良いのではないかと感じた。

○委員

出張講習会では、保育士にもお声掛けいただき参加させていただいてありがとうございます

した。ただブックコートを掛けるところまでは、職員のスキルが至っていない部分があるので、是非継続して今後もお願いしたいと思う。

(3) 燕市立図書館空調等改修工事及び仮設図書館の開設について 《事務局説明》

○委員

3月15日に燕図書館がリニューアルオープンし、原画展を開催するということだが、絵本作家の名前やその他のイベント等について教えていただきたい。

○事務局（図書館）

3月15日にリニューアルオープンしますが、今年度は、「加藤休ミ」という絵本作家さんの原画展を開催いたします。クレヨンで描かれている迫力ある原画となっているので、皆さんからも楽しんでいただけるものと思っている。

また、3月22日には、加藤休ミさんのワークショップをこどもの森で開催する予定となっている。

なお、リニューアルオープンの際には、燕図書館の近隣である燕こども園の園児を招待してオープニングのテープカットを行っていただくとともに、原画展を見ていただきたいと考えている。

リニューアルオープンに際して、その他のイベントは特にないが、原画展を3月31日まで開催しているので、綺麗になった燕図書館を原画展とともにご覧いただければと考えている。

○委員

オープニングセレモニーと原画展に小学校に行くというのは可能か。

○事務局（図書館）

大歓迎したい。是非多くの方からご参加いただきたい。

○委員

トイレの改修後は、バリアフリーになるのか。

○事務局（社会教育課）

現状の和式のトイレを全て洋式トイレに改修する。

1階の多目的トイレには、手すりも付いている。1階と2階は女子トイレが窓側に来るように、トイレの男女の位置を入替えている。また、荷物掛けも低い位置に設置している。

(4) 燕市立図書館仮設図書館の利用状況について

《事務局説明》

○委員

アンケートを見ると駐車場の問題で中央公民館の方が利用しやすいという声が多くあるようだが、今後、近隣の空き地等を駐車場として新たに借用するという予定はないのか。

○事務局（社会教育課）

駐車場を新たに用意することは、財政的な問題や地権者の関係もあるので、難しいと考えている。

○事務局（社会教育課）

今のご意見ごもっともであると思う。最初は、もともとの駐車場が手狭であるということもあるが、もう一方で国道からの出入りが非常に不便であるというお話をいただいていた。

入り口付近に縦列駐車スペースがあるが、そこに被さる形で植込みがあり、交互通行ができないという課題があった。

このたびの改修でこの植込みは撤去することとなるが、駐車場用地については、近隣に適当な土地がないこともあり、なかなか難しい。今後のさらなる課題として考えている。

協議

(1) 平成 31 年度図書館事業計画（案）について

《事務局説明》

○委員

個人情報保護のところにある「P マーク研修」とはなにか。

○事務局（図書館）

個人情報保護の研修で、プライバシーの P である。この研修を受け、個人情報保護ができているということで、P マークというものを TRC が職員へ交付している。

○委員

先ほどレファレンスの減少の話があった。工事の休館期間を設けていた燕のほか、吉田と分水もレファレンスが減少している。しかし、よく見るとインターネット検索端末利用の件数は増えている。したがって、レファレンスではなく、インターネットで検索して調べているという状況が見て取れる。レファレンスのあり方そのものを考えていかななくてはいけないと思う。インターネット検索の仕方、コンピュータのリテラシーのほか、その先も必要になってくる。例えば、「データベース化したので判例集が見ることができますよ」や「この図書館にはこの資料しかないが、こっちの項目を検索すると他の図書館も見ることができますよ」といったレファレンスのあり方を今後の図書館運営で考えていくべきと思う。

○委員

レファレンスのあり方については、いろいろな方への分かり易い案内が重要かと思うので

お願いしたい。

○委員

少し図書館から逸れてしまうかもしれないが、近年 SNS やインターネットで子どもたちが事件に巻き込まれる例を多く聞く。学校で SNS 等の使い方の指導を今もされていると思うが、今後も力を入れて継続していただきたい。

○事務局

SNS の件についてだが、いわゆるスマートフォンの所持率も年々あがっており、高校生程度になると 98%が所持している。中学生でも 50%程度、小学生でもまもなく 50%に届くというような状況である。「子どもたちにスマートフォンを与えないほうが良いのではないか」という意見も耳にするが、パソコンと同じような役割をすることもあるので、こういった便利なものを『持たせない』のではなく、『正しい使い方』を教えることが重要と思う。

しかし、全国的に聞かれているような事件が燕市で起こりうることも含め、先般行われた市内小中学校の校長会の際に、新潟県警の少年課の方からお越しいただき、県内の SNS による事故の事例を挙げてもらい研修を行なった。今後は、学校から保護者へ入学式や PTA の総会等の機会を利用するなどして伝えてもらわなくてはならない。

学校によって、その専門家を呼んで講演を行ったりといろいろなやり方があるかと思うが、この取り組みは続けていきたい。

具体的な事件の事例を申し上げますと、新潟県で起こっている事例だと、子どもが SNS から猥褻的な事件に発展することが多いとの話であった。それがエスカレートしていくと親や先生にも相談できなくなって、最後は事件になってしまう。

このようなことにならないよう、フィルタリングという危険なウェブページを見させない機能もあるが、SNS はこのフィルタリング機能では制限できないので、学校を通じて家庭にも引き続き SNS の危険性と正しい使い方について訴えていきたい。

○委員

図書館で SNS 等の危険性についての書籍を集めて小中学校へ貸出しを行なっても良いのかなと思うので、今後検討していただきたい。

(2) 第 2 次子ども読書活動推進計画の策定について

《事務局説明》

○委員

上半期の実績報告の中で、園の読み聞かせ実施数が少なくなっているが、保育園では、環境が変わり子どもが落ち着かない上半期のイベント実施は避ける傾向にある。読み聞かせにおいても同様であるので、下半期に実施する園が多いと思われる。

○事務局（社会教育課）

上半期の実績ということだと 20 園中 9 園であるが、担当課で把握している下半期の実施予定の園を含めると全園実施となる予定となっている。

○委員

子どもたちの中には、学習障がいの子どももいる。字の見方が我々と異なるため、字が渦を巻いていたり、字が読めなかったりする訳だが、同じ図書でも障がい児用の図書もあると思うので、そのあたりの資料の充実も図っていただきたい。

○事務局（社会教育課）

計画の素案は、今後、作業部会で作成していくことになるが、そこへあげる叩き台を作成する際に、学校教育課の指導主事や福祉課、子育て支援課等からヒアリングを行い、そのあたりのことも研究して素案を作成したい。

○委員

資料にアンケートの調査数が記載されているが小学3年生と小学5年生が655で同数になっている。これは、3年生と5年生の生徒のうちからどうやって選んだ655人なのか。

また、全ての合計だと2,932と書いてあるが、これはすべての回答が返ってくるとアンケート用紙が2,932枚になるということなのか。

○事務局（社会教育課）

まず、655という数字についてだが、どこか一つの小学校ということではなく、市内15校の小学3年生と小学5年生の全生徒の合計がそれぞれ655人であったということである。

数字が同じなのは、偶然の一致となっている。

合計の2,932は、アンケート用紙の枚数ということであるが、実際にはこれが全て帰ってくるわけではない。例えば、総合計画では、無作為抽出で2,000サンプルの市民アンケートを行っているが、回答率は高い時で60%程度である。

しかし、今回のアンケートは、小中学生や園児の保護者へ学校や園を通じて手渡しするものなので、もっと高い回答率になると考えている。

その他

(1) 平成30年度の蔵書点検について

《事務局説明》

○委員

蔵書点検の期間、貸出は一切行わないということか。

○事務局

蔵書点検の期間、貸出は行わない。

(2) 新潟連携中枢都市圏構想に基づく生涯学習人材バンクの連携について

《事務局説明》

質疑応答なし

《第2次子ども読書活動推進計画について》

○委員

障がいのある子どもへの支援が今の計画案でも既に掲載されているが、さらに充実してほしいと思う。

○委員

点字絵本や布絵本について、学校等へもっと周知を行い、本を活用してほしい。

○事務局

子ども読書活動推進計画は、学校と図書館と地域が連携していかなくてはできない内容であると考えている。ご指摘の障がいのある子ども向けの絵本について周知は行っているが、学校の先生から「借りに来館する暇がない」といった声もいただいているので、その辺を踏まえて今後検討していきたい。

○事務局

平成28年度から「学級文庫パック」という事業を開始した。

小学生は、校区外に1人で出られないので、図書館には保護者に連れて行ってもらう必要がある。この現状を歯がゆく感じた燕南小学校の児童から平成28年度にお手紙をいただいたことがきっかけで「学級文庫パック」がスタートした。

まだ始まったばかりで対象が小学生のみとなっているが、先ほどご指摘いただいた障がい者児童のことも含め、今後対象についてもこの第2次計画において検討していきたい。

閉会